

芦田均記念館を訪れて

研究推進部長 丹生 憲一

先週末、福知山市中六人部（宮）にある福知山市芦田均記念館を訪ねました。

「柏原高校が生んだ第47代内閣総理大臣」と伝え聞きますが、その生い立ちや功績について、本校で多くが語られることはありません。もちろん、「丹波人物伝」（丹波新聞社刊）や「柏原高校百年史」を読むと、人生のあらすじに触れることはできます。しかし、生家に足を運び、写真や書を見て、学生時代から内閣総理大臣になるまでの逸話を読むと、偉大な政治家であるとともに、人として魅力ある人だったのだと改めて知ることができました。自らの病がもとで母と妹を亡くした辛い幼少時代、柏原にある叔母の家に預けられ、崇廣小、旧制柏原中へ通われました。その頃からの夢であった外交官としてロシア赴任中にロシア革命を経験。パリ駐在時はヴェルサイユ講和会議にも出席。父親の地盤を引き継ぐ形で国会議員に当選すると、議員就任後初の演説で軍部の外交に対する批判演説をされています。敗戦後は日本国憲法の草案に携わり、首相として、戦後の混乱の時代にあって数々の法案を成立させ、日本の復興に尽力されました。そんな政治家としての一面とは別に、後の寿美夫人にロシアから百通を超えるラブレターを送られたこと、帰省の際、自分は一等車に乗る一方で、子や孫は三等車に乗せて特権意識を持たせることはなかったことなど、「内閣総理大臣 芦田均」という字面からは知り得ない「人間 芦田均」を見ることができました。

来週の木曜日は121周年の創立記念日を迎えます。24日（火）には1年生対象に、大西伸弘前校長先生から柏高120年の歴史についてお話いただきます。柏原中学が生まれた奇蹟に感謝し、偉大な先人の志に学ぶ日にしたいものです。



柏原中卒業を前に学友と写した記念写真



芦田内閣就任式(1948)



今週の「総合」「探究」より…

4月16日（月）第3学年総合 第1回

第3学年の総合では、クラスごとに小論文の書き方・面接の受け方を練習していきます。後期は進路別に講座が生まれ、進路に応じて担当ごとに授業を進める予定です。

4組では吉崎淳教諭が、年間スケジュールについて説明した後、ベネッセ・コーポレーションの「基礎小論文ハンドブックⅠ」「小論文・作文ドリル」を使って、論文の書き方を指導しました。「小論文がなぜ必要なのか」「上達の秘訣は」「作文と小論文の違いは」という問いに答えながら、ハンドブックの内容をドリルで整理していきました。ただ文章を書くだけでなく、様々な文章を読み、書くことに慣れながらことばに関する感覚を磨くこと、高校生時代に色々な経験を積み重ねることで書く内容を豊かにすることなどが力説されていました。「客観的な視点で物事をとらえ、根拠を明確にして、自分の意見を述べよう」

半年で71回生の記述力が飛躍的に伸びることを期待しています。



4月16日（月）第2学年総合 第1回

第2学年では「台湾修学旅行」をテーマに総合を進めていきます。

第1回目は、担当の長尾五月教諭から「台湾のことを知るだけではなく、台湾のことを学びながら色々な力をつけられるようにしたい」というガイダンスの後、村井俊之教諭による「台湾検定」が実施されました。内容は「台湾の位置」「台湾の面積」「台湾の公用語」「日本の西南端から台湾までの距離」「台湾ドル対日本円の為替レート」「全家（便利店）は何という店を表す看板か？」「台湾の二大スポーツとは？」など4つの選択肢から選ぶ問題、王貞治さんや故宮博物館、九份などを答えさせる筆記問題を合わせて20問。7割正解で合格ということでしたが、結果はいかに…。72回生は周囲と相談したり、通りかかった教員に尋ねたりしながら正解を得ようとしていましたが、お隣の地域でありながら、知らないことが多いことに気付いたことでしょう。

今後は講話を聴き、文献を読んで、より多くのことを知り、考えていく予定です。



4月17日（火）第2学年探究 第1回

第2学年の探究ではこれまでとは、趣を変えて地域・世界の問題に取り組んでいきます。これまで、自然科学的な切り口からが少なかったのですが、今年は「自然・環境」という分野で、例えば丹波市内の各地で採取された水質を調べ、そこに世界的な視点を加えていくというような手法を考えています。

第1回目は5・6時間目にわたって、井上由希子教諭が「課題研究メソッド」（岡本尚也著・啓林館）を使って、課題研究を進めるにあたって必要な知識を伝え、昨年度の活動を振り返りながら、今後必要なことについて生徒同士で話し合う機会を持ちました。「先行研究を踏まえて取り組んでいるか」「客観的なデータに基づいているか」「自分自身の考察・アイデアを加えているか」「他者と共有できているか」の4点について、グループごとに反省をしました。それぞれ、「ぶれない軸を持つことが必要だった」「アンケートを取るなど客観性が必要だった」「統計が必要だった」「先行事例を見るべきだった」と的確な振り返りができていたようです。次回までに「地域社会」「国際関係」「自然科学・環境」「経済・ビジネス」「農業、食糧」の5つの分野から、自分の取り組むテーマを見つけ、それぞれが課題研究を進めていくこととなります。

